

生活科に関する 現状・課題と検討事項



1. 現行学習指導要領のポイントと現状

- 生活科では、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすることを生かし、自立し生活を豊かにすること」を目標として、資質・能力の育成を図ることとした。

また、学習内容を

- 児童の生活圏としての環境に関する内容
- 低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容
- 自分自身の生活や成長に関する内容

の三つに整理した。

- 前回学習指導要領改訂では、以下の見直しを実施。
 - 幼児期や中学年以降の学習とのつながりを踏まえ、育成する資質・能力が具体的になるよう見直し
 - 活動や体験を通して気付いたことを多様に表現し考えたり、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」など、多様な学習活動を重視
 - 他教科等との関連を積極的に図り、低学年教育全体の充実を目指すとともに、中学年以降の教育に円滑に移行することを明示
 - 特に、幼児教育における遊びを通した学びから、各教科等における、より自覚的な学びへと円滑に移行できるよう、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などによる「スタートカリキュラム」を行うことを明示
- こうした改善の成果として、児童の興味・関心を生かし、内容に示された資質・能力を身に付ける授業改善が図られている。

2. AI時代に求められる生活科の在り方に関する課題

(1) 生活科の学びの本質

- 生活科の学びの本質は、児童が自分の身体を通して身近な世界との関わりを実感し、その関係性に気付くことにある。
- この気付きの質をより高めるために、直接体験が重視されており、体験を通して学習対象との関わりを深め、好奇心や探究心を育み、豊かな感性を養い、自立し生活を豊かにすることが期待される。
- しかし、現状ではこうした体験の効果を十分に引き出せていないという課題がある。

(2) 身体性を重視した直接体験の重要性

- AI時代においては、児童が自分のよさや可能性を実感し、身近な人々、社会及び自然との関わりを豊かに認識することが、これまで以上に求められる。
- そのため、生活科では直接体験を通じて身体で対象と関わることが一層重要。

(3) 言葉や絵、動作など多様な表現に基づく認識の重要性

- インターネットやSNSなどを通じて得られる情報が溢れている中で、児童が身近な人々、社会及び自然との関わりを深めるとともに、自分の成長を実感することがこれまで以上に重要である。
- 生活科では、直接体験を通して、言葉や絵、動作など多様な方法で表現し、気付きを高める活動が大切である。



3. 学びの質、学びの意欲に関する課題

- 現行学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められているが、児童一人一人の思いや願いを生かした学習活動や、深い学びを実現できていない状況も見られる。
(※参考資料1 参照)
- 安全面への配慮や時間的制約から地域に出かける活動が減り、地域の人々、社会及び自然を一体的に扱う学習が難しくなっている。その結果、児童の思いや願いに基づく必然性のある学習活動を展開しにくい状況が見られる。
(※参考資料2 参照)
- 学習意欲の低下が課題として指摘されており、学びに主体的に向かえていない児童が一定数いることが確認されている。こうした状況を踏まえ、生活科では「なぜ?」「やってみたい!」という好奇心や探究心を高める学習活動を充実させていくことが重要である。
(※参考資料3 参照)

4. 幼保小・中学年以降との接続と教科横断性の課題

- 幼児教育での学びが小学校での学びに十分に生かされていない状況が見られるなど、幼児教育と小学校生活科との接続に課題が見られる。(※参考資料4 参照)
- 教師が生活科の学びを中学年以降の社会科や理科、総合的な学習の時間などにつなげる必要があるが、十分に実現できていない状況も見られる。そのため、生活科の直接体験と多様な表現を繰り返し、思いや願いを生かした学びを、中学年以降の探究的な学びにつなげ、質の高い探究的な学びへの橋渡しを意識した教育課程を編成することが求められる。
(※参考資料5 参照)

- 他教科等と関連付けた活動が限定的であり、年間を通じた継続的な合科的・関連的な指導の工夫に課題がある。

(※参考資料6 参照)

- 教科書の構成において国語との関連が比較的丁寧に示されていることから、国語との関連が図られている一方で、算数・音楽・図工・体育など他教科等との合科的・関連的な指導への広がりをより確保していくことが求められる。

5. 業務の適正化と安全管理に関する課題

- 働き方改革で業務の適正化が求められる中、飼育活動や地域と関わる活動などでは十分な準備や配慮が必要とされる。また、安全管理の厳格化により体験活動の準備・責任が増すことも考えられる。さらに、必要な経験やスキルを持つ教師の確保が課題となっており、人材配置や支援体制の充実が求められる。

(※参考資料7 参照)



ワーキンググループにおける検討事項・論点①

1. 教育課程企画特別部会の議論を踏まえた検討事項

(1) 生活科を通じて育成する資質・能力の在り方・示し方

- 「学びに向かう力・人間性等」や「見方・考え方」の新しい整理を踏まえた目標の示し方
- 中核的な概念等に基づく内容や各教科との関わりを含む一層の構造化の在り方
- 生活科の特質を踏まえた、表形式を活用した目標・内容の分かりやすい示し方

(2) 生活科の指導と評価の改善・充実の在り方

- デジタル学習基盤の活用や情報活用能力の育成強化を前提とした、生活科における「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図るための方策
- 資質・能力の育成のために効果的かつ過度な負担が生じにくい生活科の評価の在り方

(3) 誰一人取り残さず資質・能力を育成する柔軟な教育課程の在り方

- 義務教育における調整授業時数制度や、高等学校における科目の柔軟な組み替えを可能とする仕組みを前提とした場合に、考えられる教育課程・学習指導の工夫の在り方
- 教育課程の柔軟化に伴って生じうる課題とそれを防ぐための運用の在り方

2. 生活科に関する課題を踏まえた固有の検討事項

(1) AI時代における生活科の在り方に関する検討の方向性

- 生活科の本質と価値を問い直す必要性

(例)

- 情報活用能力の抜本的向上が求められる中、生活科が大切にしてきた「身体を通した直接体験」を中核に、その本質と価値を改めて問い直す

- 身体性を重視した、直接体験・多様な表現を行う機会の必要性

(例)

- インターネットやSNSなどを通じて得られる情報が溢れている中で、対象を認識し、自分との関わりをより明らかにすることが重要。そのために、児童が身体性を重視した直接体験を通して対象と関わり、発達に応じて言葉や絵、動作などの多様な表現と結び付けることによって、より体験を深め、気付きの質を高める活動を体系的に位置付ける

※ ここでいう「身体性を重視する」とは、身体を使って直接対象に関わるとともに、対象との相互作用を通して認識し行為することを意味する。



ワーキンググループにおける検討事項・論点②

(2) 学びの質と学びの意欲に関する課題と検討の方向性

① 学びの質保証（形骸化防止、『深い学び』の実現）

- 「活動あって学びなし」を防ぐ方策

（例）

- ・ 児童一人一人の好奇心や探究心の高まりに向けて、表現活動において対象や自分との関わりを認識するとともに、自分のよさや可能性に気付く学習活動を組み込む等

② 学びの意欲醸成

- 学習対象と自分との関わりを重視し、児童の多様な興味・関心を生かした単元構成と柔軟な授業実践にする方策

（例）

- ・ 学習と実生活とのつながり（学校・家庭・地域）を重視することで、児童が自分との関わりをより一層感じられるようにする

(3) 幼保小・中学年以降との接続と教科横断性に関する課題と検討の方向性

① 幼保小・中学年以降との接続・発達の連続性

- 幼児期から中学年以降の発達に応じた連続性ある学びを充実する方策
- 総合的な学習の時間をはじめとする中学年以降の探究的な学びとの関係性の整理（情報活用能力の育成と身体性を重視した直接体験とのバランスの在り方）

（例）

- ・ 児童の思いや願いを出発点として、活動や体験を通して、身近なことへの関心を高め、感じたり考えたりする中で、自ら表現したり行為したりすること（思い・願い → 活動・体験 → 感じる・考える（気付き） → 表現・行為（気付きの質の高まり・深い意味理解））等

② 教科横断性・年間指導計画の充実

- 年間を通じて合科的・関連的な指導の工夫を計画的に行えるよう設計する方策

（例）

- ・ 教科横断性の確保とスタートカリキュラムとの接続を図り、年間を通じて合科的・関連的な指導の工夫を計画的に行えるよう設計
- ・ 他教科等と生活科との学びをつなぎ、より自覚的に学びに向かえるようにする設計

(4) 業務の適正化と安全管理に関する課題と検討の方向性

- 飼育活動や地域と関わる活動などの準備負担やリスクを軽減するための方策

（例）

- ・ 外部人材・地域ネットワーク・デジタル学習基盤の活用等

- 働き方改革の流れに沿って、持続可能な生活科の学習活動を再設計する方策

（例）

- ・ 安全指針やマニュアルを共有し、経験の浅い教師でも実施可能な体制を構築する等



参考資料・データ

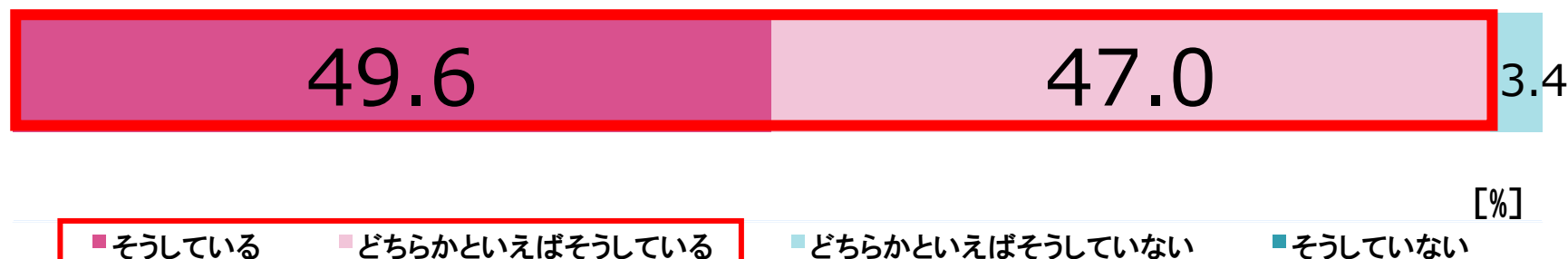
児童の思いや願いを意識した「深い学び」の実施状況



質問項目：

児童が、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとするように意識して授業を行っている

→「そうしている」「どちらかといえばそうしている」と回答した割合は
9割を超えている



※「そうしていない」と回答した割合は0.0%

「令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査」教師オンライン質問調査（国立教育政策研究所）

一方、課題も見られる



- 具体的な活動や体験が深い学びにつながるイメージを持ちにくい
- 児童理解に十分な時間がとれず、児童一人一人の思いや願いを把握しにくい

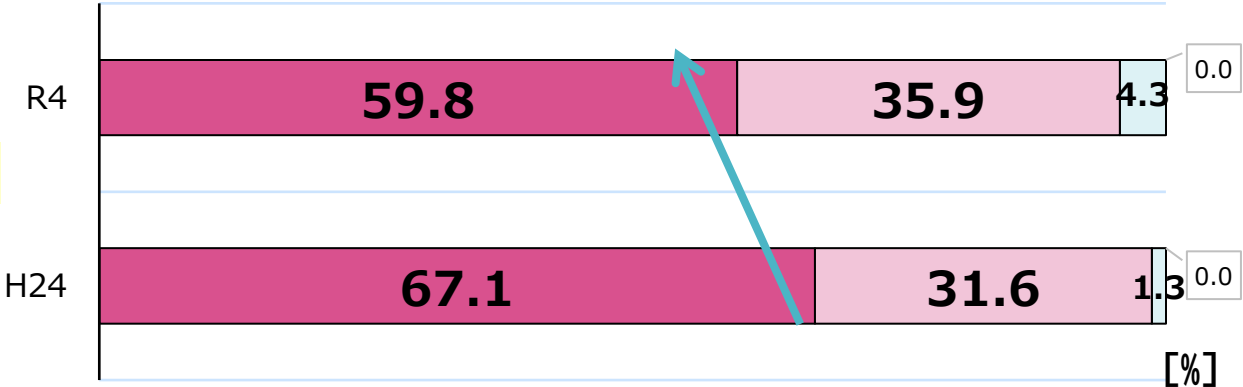
地域の人々、社会及び自然を一体的に扱う学習に課題

地域の人々、社会・自然を扱う学習について、「そうしている」と回答した割合が減少

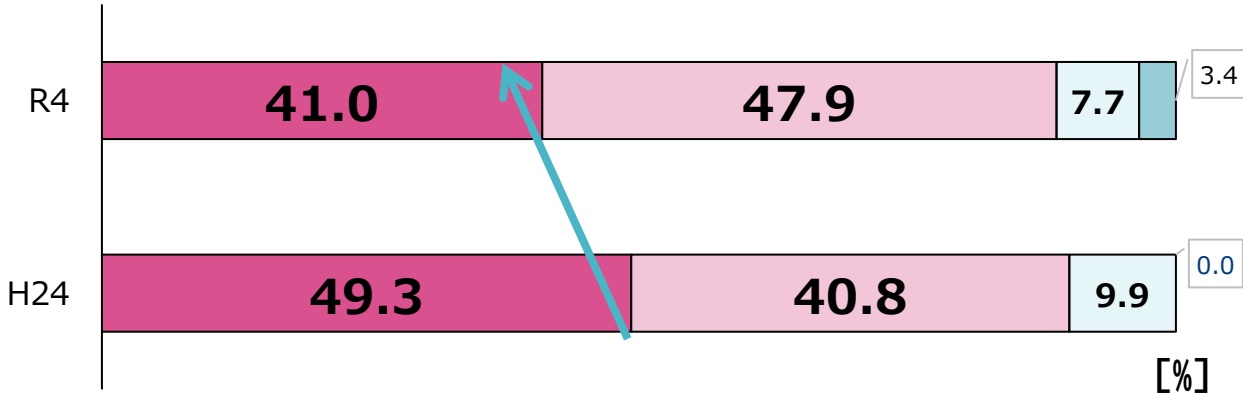


質問項目

■ 身近な人々、社会及び自然と直接関わる授業を行っている



■ 動物や植物への関わりが深まるよう継続的な飼育・栽培活動を行っている



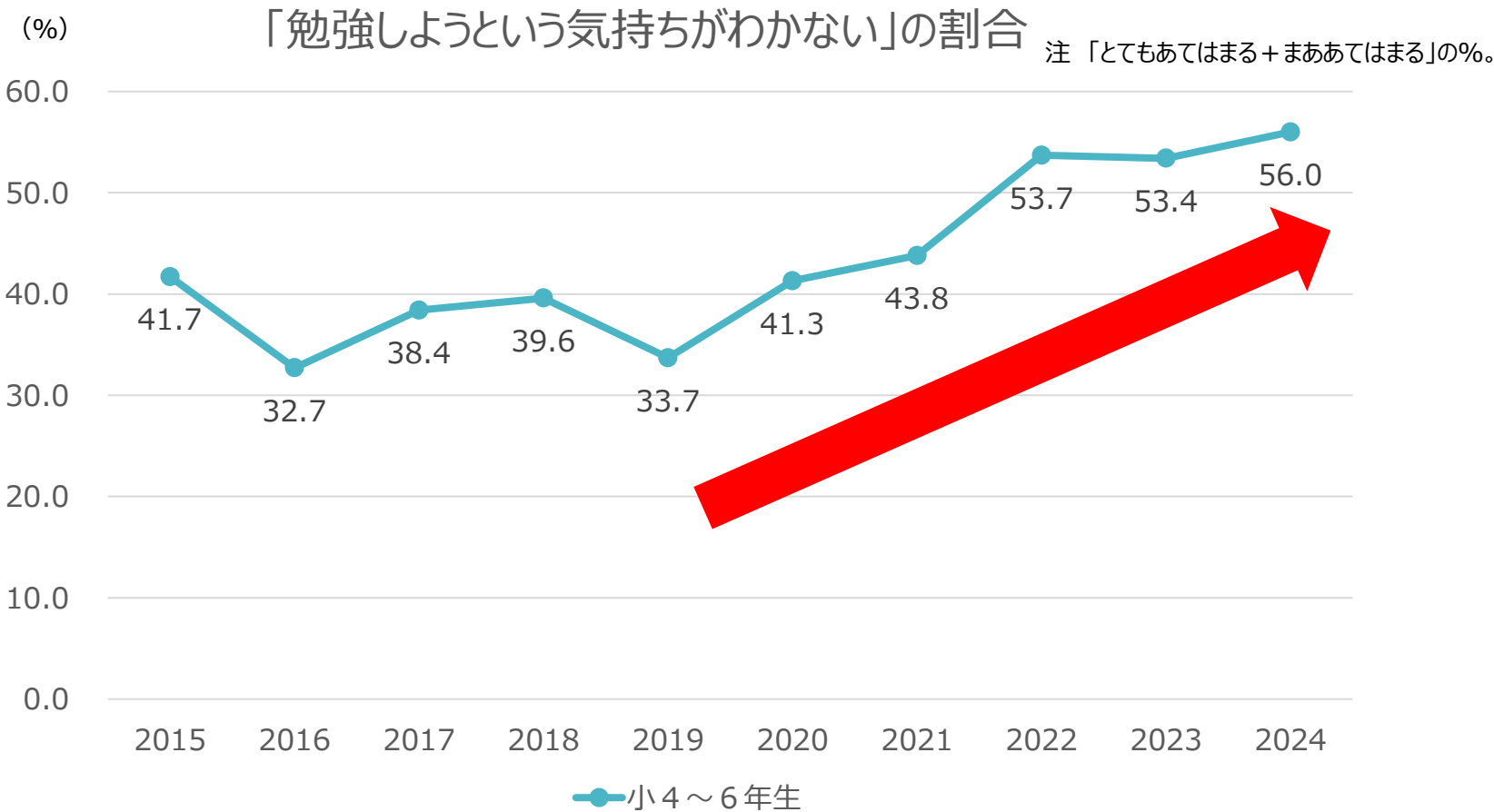
■そうしている
 □どちらかといえばそうしている

□どちらかといえばそうしていない
 ■そうしていない

児童の学習意欲が低下

小4～6年生の「勉強しようとする気持ちがわからない」割合は**上昇傾向**

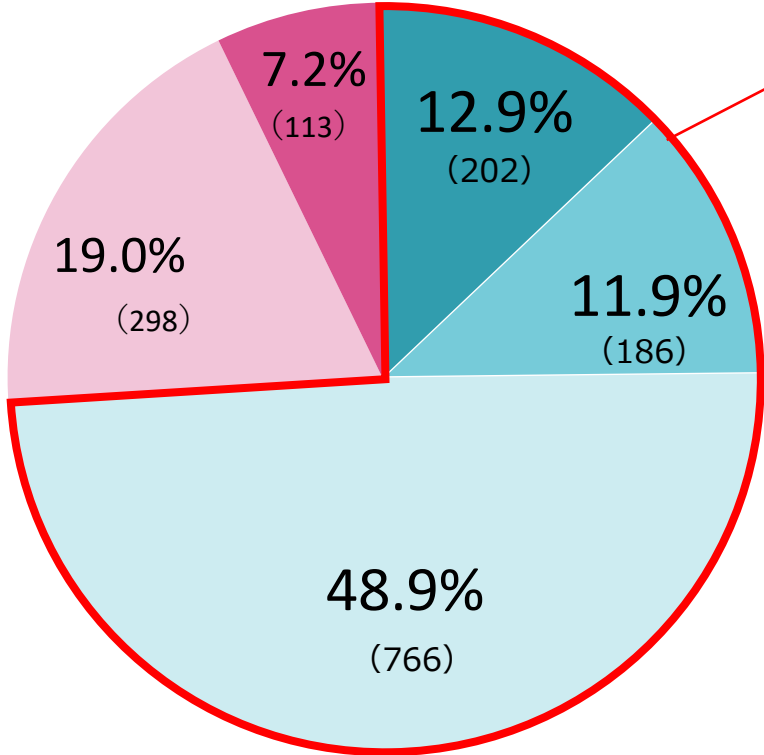
子供回答



幼保小接続に課題

約 7 割の市町村で幼保小の連携・接続の取組が不十分

幼保小連携・接続の実施状況



- ステップ0 :
連携の予定・計画がまだ無い
- ステップ1 :
連携・接続に着手したいが、まだ検討中である
- ステップ2 :
年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない
- ステップ3 :
授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている
- ステップ4 :
接続を見通して編成・実施された教育課程について、実施結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている

※母数：回答があった1,565市町村
 （幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園いずれも未設置の市町村を除く）
 ※グラフ中の（ ）内は市町村数

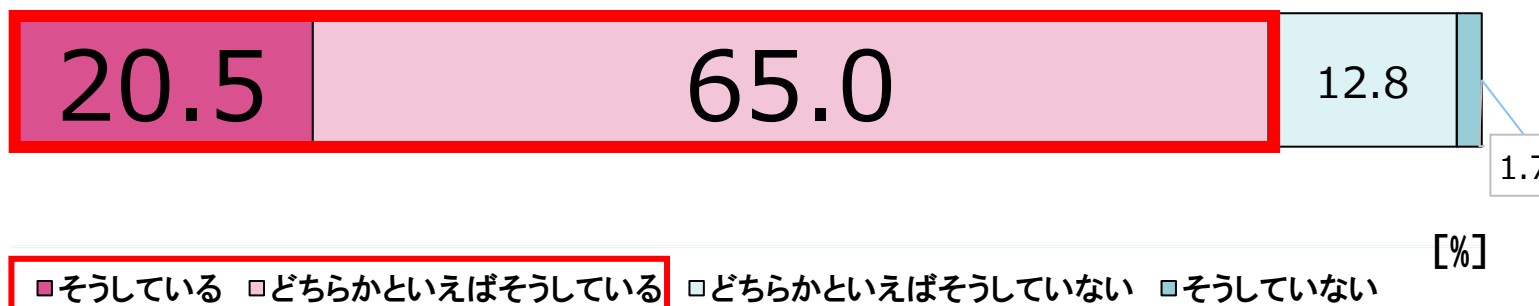
中学年以降との接続の状況



質問項目：

社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする中学年の各教科等への接続を意識して、指導計画の作成や実際の指導を行っている

→「そうしている」「どちらかといえばそうしている」と回答した割合は**約 9 割**



「令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査」教師オンライン質問調査（国立教育政策研究所）

一方、課題も見られる



- 生活科と社会科、理科、総合的な学習の時間などとの違いや関連を理解しつつ、生活科のねらいを実現させていくことについて、具体的なイメージをもちにくい

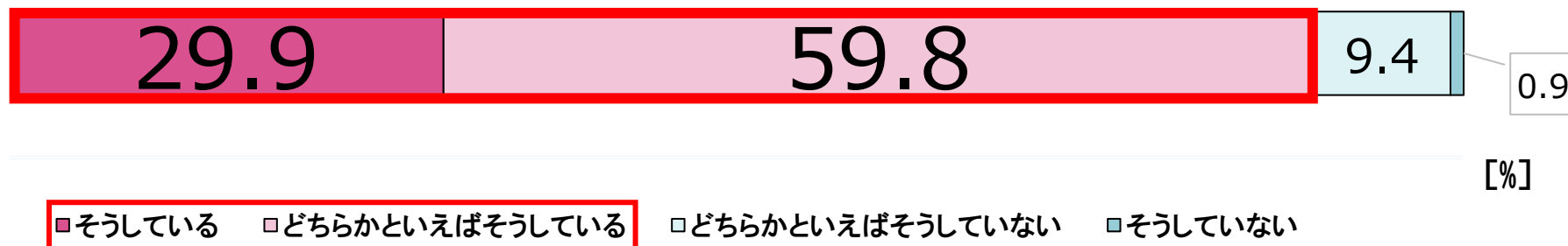
年間を通じた継続的な合科的・関連的な指導に課題



質問項目：

年間を通じて、他教科等との関連を積極的に図った授業を行っている

→「そうしている」「どちらかといえばそうしている」と回答した割合は**約 9 割**



「令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査」教師オンライン質問調査（国立教育政策研究所）

一方、課題も見られる



- 低学年の担任経験がない教師が、年間を見通した低学年全体の指導計画を把握する教材研究が不十分
- 教科横断的な視点での教育課程の編成、実践上の工夫が不十分

学校における動物飼育の困難さに課題

教職員の抱える「屋外飼育における困難さ」上位 5 つ

順位		回答割合
1	長期休業中の世話が大変	28.8%
2	病気やけがの処置が困難	15.6%
3	土日の世話が大変	13.2%
4	児童への感染症やアレルギー	11.7%
5	飼育舎の清掃が大変	9.0%

(有効回答：583件)

全国学校飼育動物研究会 第21回全国研究大会
 「小学校における鳥インフルエンザ後の動物飼育状況―全国調査」(大手前大学 中島由佳)の調査結果を基に、文部科学省にて作成。
 ※2017年7月～2018年10月に、全都道府県を対象に2,082校を無作為抽出し、調査を実施。
 ※本質問は「屋外での動物飼育」を行っている学校に限定した調査。次の16の選択肢から、「飼育をする上で困ったこと」を3つ以内選択する形式での回答を求めた結果。
 <選択肢>
 ①動物の入手方法がよく分からない ②動物の飼育方法がよく分からない ③エサの確保が難しい ④飼育舎の清掃が大変 ⑤飼育舎の修理が大変・できない
 ⑥土日の世話が大変 ⑦長期休業中の世話が大変 ⑧糞尿の廃棄方法がよくわからない ⑨病気やけがの処置が難しい ⑩死亡時の処置が難しい
 ⑪悪臭や鳴き声に対する苦情 ⑫児童への感染症やアレルギーが心配 ⑬動物と児童との触れ合い指導方法が分からない ⑭飼育費、治療費などの捻出
 ⑮教職員の負担が大きい ⑯その他(具体的に記入)



生活科について

生活科設置の経緯

時期	経緯
○昭和42年	低学年社会や低学年理科の改善の必要性について指摘→ 説明中心の学習から経験を豊富に自ら働きかける学習に（教育課程審議会答申）
○昭和43年	学習指導要領改訂
○昭和46年	生活及び学習の基本的な態度・能力の育成のために、総合的な教育を（中央教育審議会答申）
○昭和50年	理科及び社会の内容を中心として新しい教科を（教課審答申）
○昭和51年	具体的かつ総合的な活動を通して知識・技能の習得や態度・習慣の育成を図るために、合科的な指導を推進（教課審答申）
○昭和52年	学習指導要領改訂
○昭和58年	既存の教科の再構成（中教審審議経過）
○昭和59年	小学校低学年の教育に関する調査研究協力者会議
○昭和61年	教科の総合化を進め、児童の具体的な活動・体験を通じて総合的に指導する（教課審答申）
○昭和61年	生活科設置の中間まとめ
○昭和62年	生活科設置の答申
○平成元年	平成元年学習指導要領改訂（ 平成4年度～生活科全面实施 ）

平成元年から平成29年改訂までの生活科の変遷

	H元年改訂	H10年改訂	H20年改訂	H29年改訂
教科目標・学年目標	教科目標の要素 ①具体的な活動や体験を通す ②自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心をもつ ③自分自身や自分の生活について考える ④生活上必要な習慣や技能を身に付ける ⑤自立への基礎を養う 学年目標の要素 ①自分と社会 ②自分と自然 ③体験と表現	学年目標 ○体験と表現の一体化を強調 「身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどを言葉、絵、動作、劇化などにより表現できるようにする」と強調	学年目標 ○自分自身に関する目標を新設 「身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活することができるようにする」と新設	教科目標 ○教科目標を資質・能力で再整理 「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す」と示した上で、育成する資質・能力を3つの柱で再整理 学年目標 ○3つのまとまりで整理 ①学校、家庭及び地域の生活に関する内容 ②身近な人々、社会及び自然に関わる活動に関する内容 ③自分自身の生活や成長に関する内容
内容	第1・2学年に各6項目	2学年まとめて8項目	2学年まとめて9項目 「生活と出来事の交流」新設	2学年まとめて9項目
指導計画作成と内容の取扱い	指導計画作成の配慮事項 ・地域の社会や自然を生かし、一体的に扱うように工夫する ・自分とのかかわりを把握できる学習活動とする ・生活上必要な習慣や技能の指導は、学習活動の展開に即して行う ・言語、造形などに関する指導との関連を図り、指導の効果を高める	指導計画作成の配慮事項 ○H元年を一部改訂 ・地域の人々、社会及び自然を一体的に扱う ・「言語、造形など」を「国語、音楽、図画工作など他教科等」と変更し、合科的・関連的な指導を一層推進 ○次のことを新設 ・校外での活動を積極的に取り入れる ・必要に応じて手紙や電話などを用いて伝え合う活動を工夫する ・多様な人々と触れ合う ・2年間で動植物の飼育・栽培を行う	指導計画作成の配慮事項 ○H10を一部改訂 ・継続的な飼育、栽培を行う ・第1学年入学当初に生活科を中心とした合科的な指導を行う ・道徳の時間などとの関連を図る 内容の取扱い ○次のことを新設 ・気付いたことを基に考えさせるため、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を工夫する	指導計画作成の配慮事項 ○次のことを新設 ・主体的・対話的で深い学びの実現 ・2年間見通した学習活動 ・低学年教育全体の充実 ・幼児教育との関連 ・中学年以降の教育へ円滑な接続 ・障害のある児童への指導の工夫 内容の取扱い ○次のことを新設 ・多様な方法で表現し考える ・表現活動を通して気付きの質を高める ・見付ける、比べる、たとえることに加え、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を工夫する ・コンピュータなどの情報機器を適切に活用する

生活科の目標等及び学年・時数

■ 教科目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う

■ 身近な生活に関わる見方・考え方

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事

■ 時数、単位数

小学校 1、2 年生：週 3 コマ

生活科の学年目標と構成

第1学年及び第2学年 目標

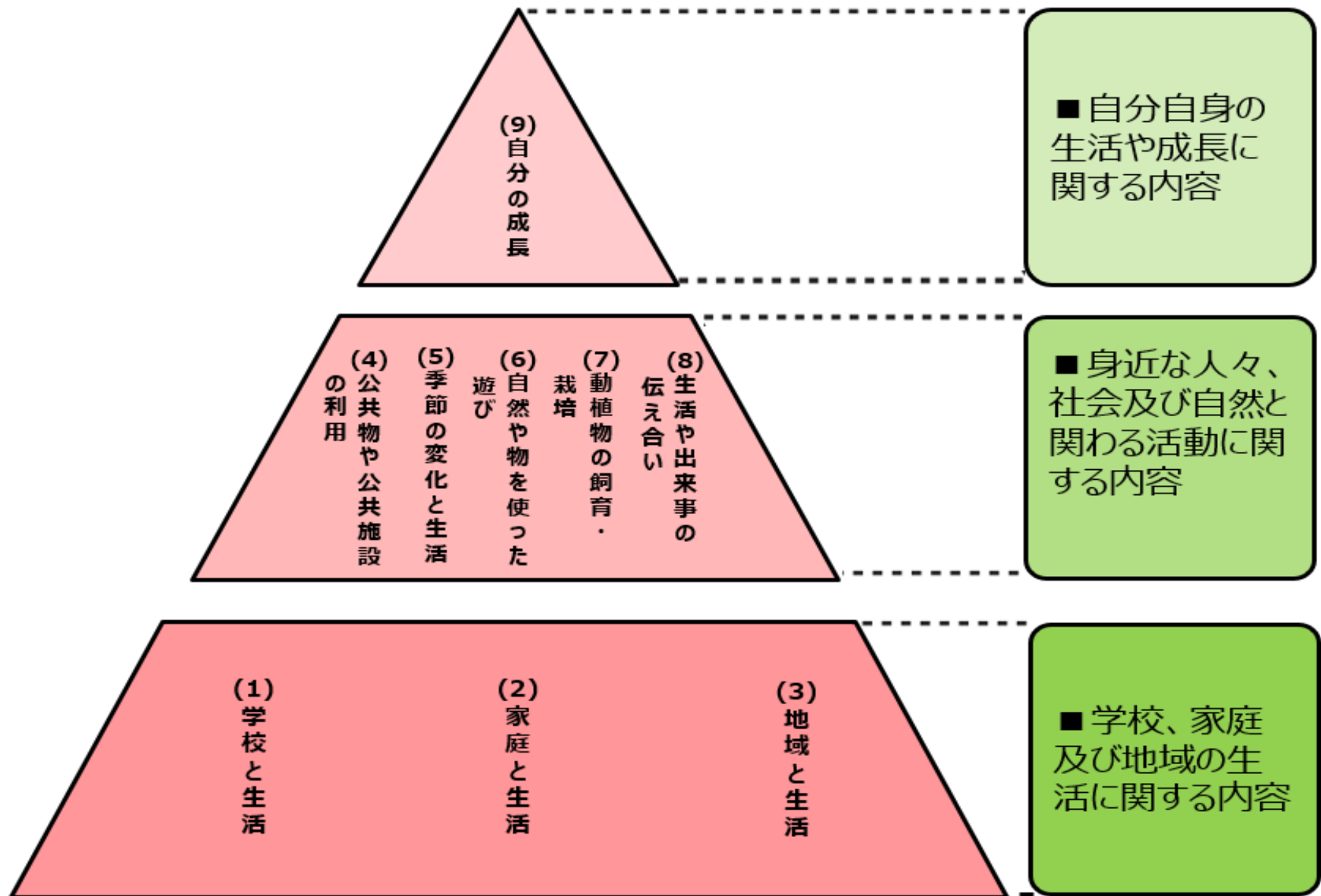
- (1) 学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気付き、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。
- (3) 自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活するようにする。

学年の目標の構成

育成を目指す資質・能力を一文の形で構造的に示し、次のことを強く意識して表記

- 育成を目指す資質・能力が、個別ばらばらのものではないこと
- 三つの資質・能力がつながり合い連動していること
- 児童の姿としては一体となって表れるものであること

現行学習指導要領における内容の階層性



生活科の内容構成の 具体的な視点

- ア 健康で安全な生活
- イ 身近な人々との接し方
- ウ 地域への愛着
- エ 公共の意識とマナー
- オ 生産と消費
- カ 情報と交流
- キ 身近な自然との触れ合い
- ク 時間と季節
- ケ 遊びの工夫
- コ 成長への喜び
- サ 基本的な生活習慣や生活技能

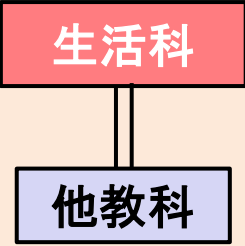
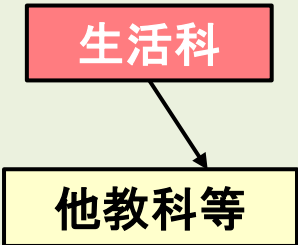
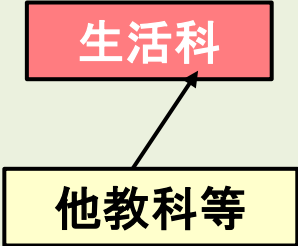
生活科の内容を構成する 具体的な学習活動や学習対象

- ①学校の施設
- ②学校で働く人
- ③友達
- ④通学路
- ⑤家族
- ⑥家庭
- ⑦地域で生活したり働いたりしている人
- ⑧公共物
- ⑨公共施設
- ⑩地域の行事・出来事
- ⑪身近な自然
- ⑫身近にある物
- ⑬動物
- ⑭植物
- ⑮自分のこと

生活科の内容の全体構成

階層	内容	学習対象・学習活動等	思考力、判断力、表現力等の基礎	知識及び技能の基礎	学びに向かう力、人間性等
学校、家庭生活及び地域の	(1)	・学校生活に関わる活動を行う	・学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考える	・学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かる	・楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする
	(2)	・家庭生活に関わる活動を行う	・家庭における家族のことや自分でできることなどについて考える	・家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる	・自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする
	(3)	・地域に関わる活動を行う	・地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考える	・自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かる	・それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする
身近な人々、社会及び自然と関わる活動に	(4)	・公共物や公共施設を利用する活動を行う	・それらのよさを感じたり働きを捉えたりする	・身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる	・それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする
	(5)	・身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を行う	・それらの違いや特徴を見付ける	・自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付く	・それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする
	(6)	・身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を行う	・遊びや遊びに使う物を工夫してつくる	・その面白さや自然の不思議さに気付く	・みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする
	(7)	・動物を飼ったり植物を育てたりする活動を行う	・それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかける	・それらは生命をもっていることや成長していることに気付く	・生き物への親しみをもち、大切にしようとする
	(8)	・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行う	・相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりする	・身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かる	・進んで触れ合い交流しようとする
自分自身の生活や成長に関わる	(9)	・自分自身の生活や成長を振り返る活動を行う	・自分のことや支えてくれた人々について考える	・自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる	・これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする

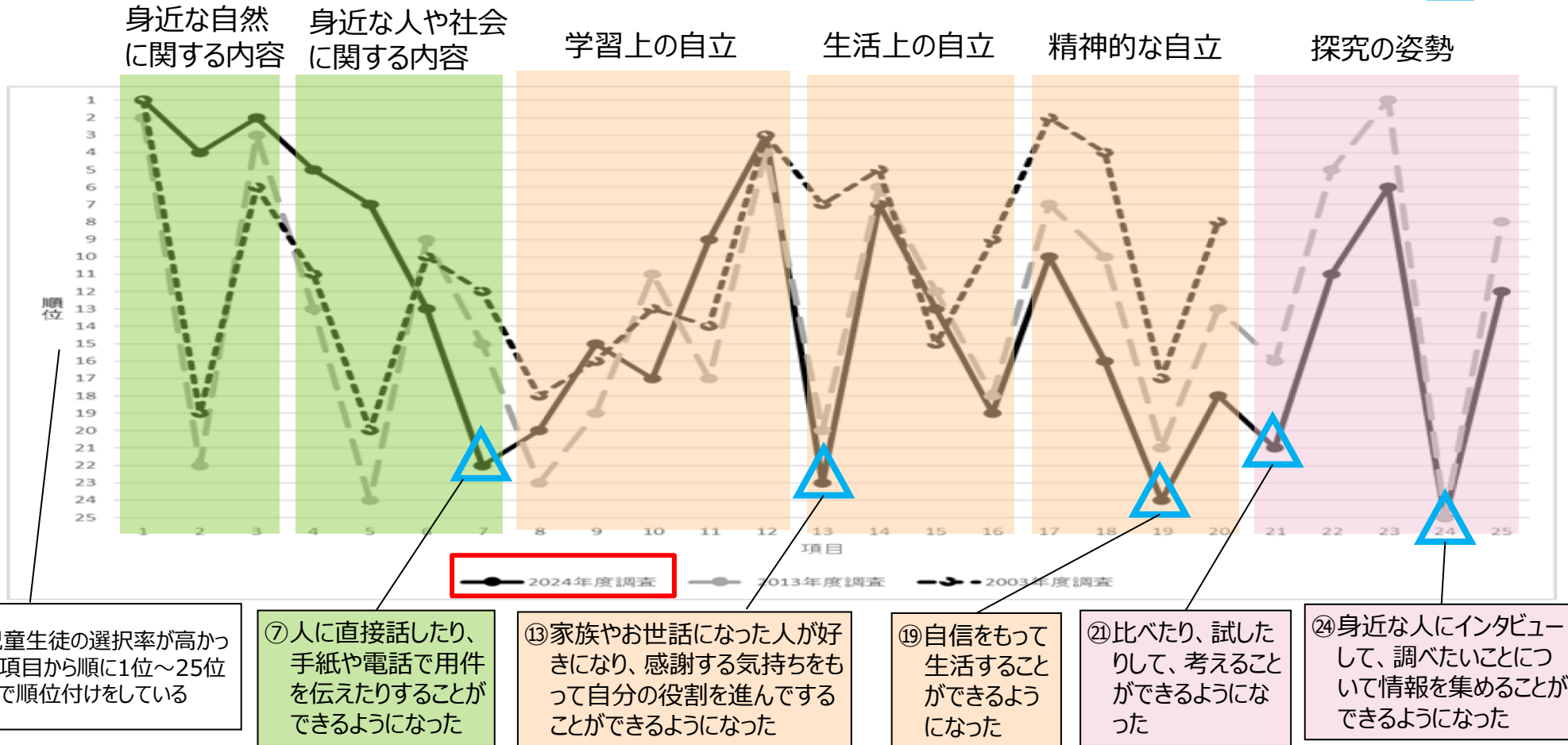
生活科 合科的・関連的な指導の工夫

	捉え方	タイプ（例）	スタートカリキュラムにおける具体例
合科的な指導	各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するもの	【合科】  <pre> graph TD A[生活科] --- B[他教科] </pre>	生活科の学校探検で気付いたことなどを言葉で表現したり、友達と伝え合ったりする学習活動において、国語科の資質・能力「伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどをくふうすること」について指導することで、より効果的にねらいの実現を図る
関連的な指導	教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するもの	【関連A】  <pre> graph TD A[生活科] --> B[他教科等] </pre>	生活科で春の自然を観察したり、自然のもので遊んだりする体験が、音楽科で春の歌の曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くことに生かされるように関連を意識して指導する
		【関連B】  <pre> graph BT B[他教科等] --> A[生活科] </pre>	算数科で育成する、ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べることや、個数の順番を正しく数えたり表したりする知識及び技能が、生活科の学校探検で見つけたものを数える際に生かされるように関連を意識して指導する

生活科で身に付けたい力（課題）

○生活科を学習したことで、自分にどんな力がついたと思うか、全25項目の中から複数選択可として回答を求めた結果

児童生徒の選択率が低かった項目 = △に課題



日本生活科・総合的学習教育学会「生活科で育った学力についての調査研究（令和6年 科研費）」

■ 調査対象：小学校3～6年生（676人）、中学校1～3年生（363人）、高等学校1～3年生（327人）

■ 調査人数：1366人

スタートカリキュラムの中核としての役割

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）（平成22年11月11日）概要

- 幼児期と児童期の教育との接続を円滑に進めることは、児童の円滑な小学校生活のスタートにつながるとともに、いわゆる「小1プロブレム」の発生の防止につながる。
- 小学校入学時に幼児期の教育との接続を意識したスタートカリキュラムが生活科などを中心に進められており、生活科は他教科等との合科的・関連的な指導を行うことが期待されている。
- このような生活科などを中心としたスタートカリキュラムの取組は今後も進めていく必要があり、その取組を進めるに当たっては、小学校低学年の教育課程全体を視野に入れて行われることが重要。

「スタートカリキュラムスタートブック」（国立教育政策研究所 平成27年1月）より

ゼロからのスタートじゃない！

子供は幼児期にしっかりと学んできています



スタートカリキュラムをデザインする

①単元の構成と配列

- 主体的に自己を発揮しながら、より自覚的に学びに向かうことが可能となるよう、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫を行う
- そのために、第1学年の全ての単元を配列し、俯瞰することができるよう単元配列表を作成する

第1学年 単元配列表 (例)						
各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	
国語	あいうえおであそぼう					
	いちねんせい	よろしくね	はるのあさ	みつけたよ	ことばのひみつ	あめのひ
算数	なかまづくりとかず	くらべよう	10までのかず	なんばんめ	いくつといくつ	ともだちとはなそう
生活	がっこうだいすき みんななかよし					
音楽	みんなであうたう		おんがくにあわせて			
図画工作	すきなもののいろいろ	じぶんマーク	こんなことあったよ	ねんどであそぼう	すなやつちであそぼう	おおきくなあれ
体育	からだほぐし	ゆうぐあそび		おにあそび		
道徳	げんきにあいさつ	みんなであつかうもの	ともだちとなかよく	いきものとなかよし		
特別活動	入学式	1年生を迎える会		おしごとたのしいな		

②週の計画と時間配分

- 児童の発達の特長や学びの特徴を踏まえ、短い時間で時間割を構成したり、ゆったりとした活動時間を位置付けるなど、弾力的な時間割の設定の工夫を行う
- そのために、実践に向けて具体化・可視化した週案を作成する

スタートカリキュラム第2週の週案 (例)					
	第6日	第7日	第8日	第9日	第10日
日	4/〇(月)	4/〇(火)	4/〇(水)	4/〇(木)	4/〇(金)
朝	「なかよくなろう」※ ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	「なかよくなろう」※ ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	「なかよくなろう」※ ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	「なかよくなろう」※ ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・本がたきさん	「なかよくなろう」※ ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・本がたきさん
ポイント1	「がっこうだいすき みんななかよし」 ・自己紹介をしよう (国「よろしくね」2/3) ・学校のはてなや	「あいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国2/3) 「くらべよう」 ・数を比べよう (算1/3)	「あいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国2/3) 「はるのあさ」 ・リズムに合わせて読もう(国1/3)	「がっこうだいすきな かよしいっぱい」 ・遊具で遊ぼう (体「ゆうぐあそび」1)	「あいうえおであそぼう」 ・ひらがな (国2/3) 「はるのあさ」 ・聞き合おう (国1/3)
ポイント2	びっくりを見付けよう (生1と1/3)	「はるのがっこう こんには」 ・春と遊ぼう (生2)	「10までのかず」 ・数えてみよう (算1)	「見付けたものを数えてみよう (算「10までのかず」1)	「10までのかず」 ・絵を見て数えよう ・数字を書こう (算1)
生活科を中心とした学習活動					
ポイント3	「あいうえおであそぼう」・ひらがな (国2/3) 「なかよしだいさくせん」 ・みんなでおしく給食を食べよう (食1/3)		「はるですよ」 ・みんな生きている (道1)	「はるのあさ」 ・工夫して読もう (国1/3)	「からだほぐし」 ・二人、三人、みんなであそぼう (体1)
教科等を中心とした学習活動					
ポイント4	「くらべよう」 ・数を比べよう (算2/3) 「みんなであうたう」 ・知っている春の歌を歌おう (表1/3)	「はるのがっこう こんには」 ・春のTシャツを作ろう (国工「はるとなかよし」1)	「はるのがっこう こんには」 ・春のTシャツを飾ろう (国工「はるとなかよし」1)	「みんなであうたう」 ・わらべうたで遊ぼう (音1)	

※の時間については、授業時数以外の教育活動として位置付けたり、各教科等で実施したりすることが考えられる。(各教科等で実施する場合には、学習活動がその教科等の目標や内容を実現するものである必要がある。)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿①

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿②

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを持ちもちて関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。